

■特集 行政報告

は、設立を期待していた市民の皆さんにご心配やご迷惑を掛けたいことに対し、深くお詫びします。

今後、同類の申請が出た場合については、法人認可や施設の許認可はすべて県ですが、市としても意見書を出す以上、その責任を十分に認識しながら、慎重な対応をしていきたいと考えています。

■林道西谷牛文線排水改良事業の推進を行う

長船町土師地内の林道大谷線は、起点西須恵側、終点土師側となっております。この線は、排水改良のため干田川に接する終点部分約200メートルの区間を、単

県補助事業により、平成18年度で約20メートルの区間について、残る約180メートルの区間について、近年の豪雨の状況から早期に改良が必要であると考へ、国庫補助事業による地域再生基盤強化事業に変更し、事業推進を行います。

また、この区間が大谷線と本年度開通する西谷牛文線との共用区間となっているため、林道の利用度合などを考慮し、この区間を西谷牛文線に変更して、林道西谷牛文線排水改良事業とします。

■観光センターを観光客や市民が集える憩いの施設に

本市の観光拠点となる観光センター整備事業は、今年度中に入札により建築業者決定を行い、平成20年度に建築工事着手。完成には半年程度を要する見込みです。

建物の外観は、牛窓の町並みと調和のとれたデザインで、利用者の誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮し、観光客や市民が集い、憩える施設にします。

■市道南北線道路新設事業の進捗状況

市道南北線は、現在、瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会において、順次埋蔵文化財の発掘調査を行っています。

その一方で、起点部分である長船町土師地区において、干田川に架かる橋梁下部工を発注しています。また、用地交渉も残り数人となり、早期に全線買収済となるよう取り組んでいます。

■安全な水道水の安定供給に努める

本年9月末の上半期仮決算の概要は、収入総額4億6千万円に対し支出総額3億8千4百万円となり、差引約7千7百万円の純利益となりました。

建設改良事業のうち、邑久町尾張地内の石綿管布設替工事及び長船町土師地内の送水管布設工事は、施工中です。

石綿管の更新は、計画通り工事が完了すると、本年度末の石綿管残延長が約8キロメートルになり、全送配水管延長337キロメートルに対し、約2%の残

となる予定です。今後とも安全な水道水の安定供給に努めます。

■市民病院の業務の一本化と経営改善に取り組む

瀬戸内市民病院は、本年4月から牛窓分院との協働体制により、業務の一本化と経営改善に取り組んでいます。

平成20年4月からは市民病院へ入院機能を一本化して効率化を図り、牛窓分院を診療所として再出発するため、現在、集約の準備を進めています。なお、将来の瀬戸内市民病院の病床規模は、110床が適当と判断して、県と協議をしています。

また、美和診療所は平成20年3月末に廃止の方向で、地元説



本年4月から業務の一本化に取り組む瀬戸内市民病院

■人権教育研究発表会で研究成果を発表

平成18・19年度の2年間、牛窓西小学校が、文部科学省人権教育研究指定校事業、牛窓中学校区が岡山県人権教育総合推進事業の指定を受けました。推進テーマの「自他の違いを認め合い、ともに伸びゆく牛窓町」のもと、学区内の幼稚園・小学校・中学校や公民館などが連携して研究、実践に取り組んできました。

その研究成果の発表の場として「人権教育研究発表会」が、11月22日に県下の人権教育に携わる教職員や社会教育関係者約600人参加のもと、開催されました。

この事業を通して、学校での学びの場面を土台に、地域の人々が加わり、地域で支え合う、共生社会の実現に一步近づけたのではないかと思います。

今後も、これらの取り組みが市全体に広がり、すべての人々が、かけがえのない存在として尊重される瀬戸内市の実現のため、人権教育の充実に努めていきます。

■教育委員会部局

■小学校の通学区域や学校統廃合について、通学区域等検討委員会で協議

小学校の通学区域および学校統廃合については、10月2日に答申を受けました。その内容については、「小学校の統廃合は避けては通れない問題である。しかし当市の財政状況は厳しいものがあり、学校の統廃合に係る投資的経費を捻出できるか心配である。今後は、この答申を基に市財政部局と協議をいただき、

■全国学力学習状況調査結果を踏まえ、改善プランを作成

具体的な建設計画をお願いしたい」と結んでいます。その答申を受け、これから教育委員会内で十分協議し、計画を立てていきます。

本年4月に実施された全国学力学習状況調査の結果が、10月24日に公表されました。本市の状況については、現在の市のホームページで公開しています。

学力の状況は、中学校は全国、県平均に比べて遜色ないものの、小学校は、やや課題がみられま



校外活動でいきいきと行動する児童たち

す。特に、算数の学習で苦手意識があり、自信が持てない児童の割合が多くみられます。また、小学校中学校ともに、全国、県平均同様に基礎的な力に比べて、活用力が弱いという状況がみられました。

学習状況は、読書好きの児童生徒の割合が、全国、県平均に比べて高いものの、家庭学習にかける時間の割合は低い状況でした。また、子どもたちの日常生活では、地域の清掃ボランティア活動などに積極的に参加している、地域に対しての愛着があり、郷土を愛する心も育っていることが分かりました。

また、学力との相関では、毎朝きちんと朝食を取っている児童生徒ほど学力が高い、学校で楽しみにしている活動がある児童生徒の方が学力が高いという傾向も見られました。

現在、各学校で結果の分析を行って、それを基に今後の改善プランを作成・実施していく予定です。教育委員会も、そうした各学校の改善プランを分析し、本年度中をめどに、支援策を取りまとめいきます。